

## 「ベトナム国家大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部・(平岡由理)

## ①参加した前後の変化について(学習成果)

ベトナムは社会主義国ということもあり、女性の社会進出や高等教育の機会提供が進んでいるという記事を目にし、実際にそうであるのか肌で確かめてみたいという思いから本プログラムに参加した。

実際にベトナム国家大学に行ってみると、言語系の学部だったからか、確かに女子が多かった(90%くらいは女性でないかと思う)。現地学生に聞いてみたところ、工学系の学部は男子学生が圧倒的に多いのだという。この点は日本と変わらないと思った。大学全体の男女比は京大よりは女子が多いのではないかと思う。

最終日のプレゼン発表では、日本とベトナムの結婚・仕事観のちがいについて発表したのだが、社会進出という点については、女子は結婚しても一般的に働き続ける、また結婚した後も男女は平等、と(男女関係なく)ベトナムの学生が口を揃えて言っていたのが非常に印象的だった。

社会のシステム的には強く社会主義・共産主義が維持されているようには個人的には感じなかったものの、仕事観。男女観の個人レベルには影響を与えられている部分があるのではないかと感じた。

## ②海外での経験について

台湾に一度行ったことがあったが、同じアジアでも(当たり前だが)ここまで雰囲気が変わるのだと思った。英語が世界共通言語となりつつ有る一方、地域によってはまだまだそうではないということを思い出させられた。

## ③プログラム内容について

ベトナム国家大学の言語学部日本語専攻、人文社会学部日本文化専攻の授業に混ぜていただくのがメインだった。またベトナムの文化等についての英語や日本語の授業を受けることもあった。

## ④進路への影響について

私が進む進路には国際でも国内でのキャリアがつかめるが、海外でのキャリアにもやはり関心が高まった。一方今回海外に行ってみたことで、日本もまた客観的に捉え直すきっかけにもなった。日本のためにも、世界のためにも、どちらか二者択一ではなく、両方に関われるようなキャリアをすすみたいと思う。